



Omoshiro Lab.



おもしろラボ年次報告書 2016 年度

Omoshiro Lab. Annual Impact Report FY2016



1.

おもしろラボとは

「おもしろラボってどんな場所ですか」
「工学部C1棟1階にオープンした、所属や年齢を超えた多様な人々の共創のためのコミュニティスペースです」

企画立案から改修に1年かかり、2016年春にこれまで広島大学の学内にはなかった場「おもしろラボ」が生まれました。初年度を通じて四苦八苦しながらも、おもしろラボのおぼろげな形が見えてきたところです。

おもしろラボの特徴は三つあります。まずは、「①学生が活動を『発信』する場」であることです。学内は、多様な研究や活動を行う学生で溢れています。けれども専攻やサークルが違えば、お互いのことはほとんど知らないままに学生生活が過ぎていく。とても残念なことです。研究や学生活動の活発なアピールは、今日の大学に求められる姿でもあります。そこで、学生が自身の研究や活動を学内外の人に向けて発信する場を用意することにしました。

次に、「②学生が『発進』する場」であることです。学生数は多い広大ですが、今のところは自らの活動を発信するような積極的な学生は少数派かも知れませんが、身近なところで活躍する学生の姿を目にすることで、受け身になりがちに大学生活を過ごしている学生達にも、勉強や研究、課外活動などにおいて積極的に歩み出す(=発進する)きっかけにしてほしいと願っています。

①と②を実現するために、おもしろラボは「③学生と教員からなる企画・運営委員会が場の管理や企画運営等に当たる」という面でも、学内では珍しい場です。より使いやすく、学生から求められる場とするためには、自主管理という形態が必要だと考えて「おもしろラボ企画・運営委員会」を設置しました。2016年度末現在、3名の大学院生と3名の学部

生、4名の教員から構成される委員会、そのあり方を模索してきました。そうしたなかで、学生の『発信』や『発進』を促進するために、まずは**企画・運営委員会**でいくつかの**フレーム**を用意することにしました。学内外のゲストが専門分野や仕事について語り、学生と対話を持つ「**Lab Talk**」(火曜夕方に不定期で開催)、学生活動のアピールの場としての「**Lab Music**」(金曜昼休みに開催)と「**Lab Gallery**」(室内ギャラリースペースに二週間程度の作品展示)、教職員と学生や学外の人との交流を目的とした「**Lab Cafe**」(不定期で開催)です。これらをベースに、学生団体による自主企画でもラボが利用され、「あそこに行けば何か面白い出会いがある」というような場にしていけたら、と日々の試行錯誤を重ねています。

ラボはもちろん**教員・職員にも開かれた場**です。これまで学部や学会の行事、授業にも使用されてきています。また、工学部学生支援室の企画する「**英語村**」は英語の堪能な職員の方が来られて木曜夕方に開かれています。英語限定のコミュニケーションの場です。留学生も集い、毎回賑わいを見せています。12月からは工学部企画の催し、学生と社会の方々との接点として広島大学工学同窓会におられるOBOGの方々との談話の場「**先輩交流アワー**」が始まっています。

ここからは、おもしろラボが生まれた経緯をおはなしします。広島大学ではこれまで、教育・研究施設を有効に活用するために、大学の運営戦略に基づいて教育や研究、社会貢献等を弾力的に行うためのスペースを整えてきました。その一貫として、数年にわたる大規模改修を終えた工学部内に「**学生が主体的に学び、語り合い、自由に使えるような、学内にこれまでないスペース**」を、C1棟1階の111・112教室を改修して整備することになり、2015年春に建築学専攻の教授平野吉信先生のもとに企画立案の依頼がきました。そこで平野先生のご指導のもと建築計画学研究室と設計学研究室の大学院生と教員が議論を重ね、冒頭の

ようなコンセプトを企画しました。それと同時に、会議室と院生講義室として使用されていた二室の壁と天井を取り払って一室構成とし、また講義室側は腰壁をはずし、屋外にはウッドデッキを設置することで室内外の連続性を持たせ講義棟からのアクセスも容易にする計画をたてました。企画案は大学に採用され、4ヶ月程の改修工事が行われました。自分達が企画したものが学内で実現する過程を目にすることができたことは、メンバーにとっては貴重な学びとなりました。

おもしろラボが使われるようになると、「講義室より柔らかい雰囲気」「通りすがりの人も立ち寄れる」「いろんな目的に使える」「学生が自由に使える」といった点を評価する声が届きます。おもしろラボは、**建設から40年近くが経過した大学施設を今日の学びや研究活動にふさわしい場とするためのパイロットプロジェクト**として、これからの広島大学になくってはならない場となっていく予定です。

改修前の外観



改修後の外観



おもしろいは世界を変える
あなたが"はっしん"できる場所

おもしろラボ

この場所は、所属や年齢を超えた多様な人々の共創
のためのコミュニティスペースです。
キーワードは『おもしろい!』とふたつの『はっしん』。

おもしろラボの使い方はいろいろ。
あなたに合った使い方を見つけて下さい。

ひとつは『発信』。
あなたの『おもしろい!』
を世の中に『発信』
できます

もうひとつは『発進』。
『おもしろい!』を原動力に
あなた自身が『発進』し、
新しい世界への第一歩を
踏み出しましょう

情報や活動を発信したい

「活動をいろんな人知ってもらいたい」「無料で使えるギャラリーがあると助かる」「活動の報告会を
やりたい」って人はこちら！ 学生や教員、職員…学内の方ならどなたでもご利用になれます。

①発信の方法はふたつあります

⇒自分達で企画をつくる『持ち込み企画』
例) 報告会、講演会、ワークショップなど、自由に考えて下さい。

⇒『Lab 企画』を利用する
⇒Lab Music 音楽を演奏したい
⇒Lab Garely 作品を展示したい

②申し込みから利用までの手順

1. ウェブの企画フォームに入力
2. 企画運営委員会が 内容を審査→実施の決定通知
3. おもしろラボの利用
4. 報告書の提出

・おもしろラボの利用に際しては、最終的に何らかの「発信」を行って下さい。その形式は報告会やイベント等、問いません。
・特定の宗教・政治等の思想を流布する目的での使用はご遠慮いただきます。
・作成いただいた報告書は、おもしろラボの利用記録と場の改善のために利用させていただきます。

イベントに参加したい

おもしろラボでは様々なイベントを開催しています。
イベント情報はFBやウェブサイトでチェック！

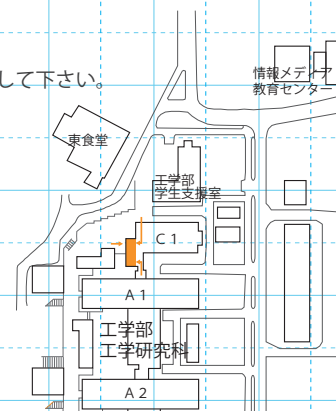
フリースペースとして使いたい

どうぞ、おもしろラボをご利用下さい。
ただ、利用は予約が優先になるので、ウェブサイトの reservation 欄もチェックして下さい。

企画運営に携わりたい

おもしろラボ企画運営委員会ではメンバーを募集しています。
問い合わせメールはこちらまで omolab-en@hiroshima-u.ac.jp

開室時間 平日 7:00～24:00 土・日・休日 7:00～21:00
(C1 棟内の廊下側からは平日の7～24時、ウッドデッキ側からは平日・土日・
休日の7～21時に出入りできます)
年末・年始、お盆休み中はお休みです
使用後は冷暖房機器の点検、清掃、ゴミ捨てを行って下さい



2.

2016年度の利用と活動の記録

おもしろラボが一年間どのように使われたか、テーマごとにまとめ、振り返ってみましょう。

□ 04/13 オープニング

オープニングセレモニー

- ・オープニングの挨拶 (工学研究科長 佐野庸治先生)
- ・おもしろラボ(仮)の説明と利用案 ほか

オープニングイベント

- ・講演「学生が活躍できるキャンパス空間とは」(産学地域連携センター 塚本俊明先生)
- ・学生団体による活動発表
- ・ラウンドテーブル「おもしろラボ(仮)、こんな風に使いたい！」



□ 持ち込み企画：学生が計画し実施したもの

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 04.21 廃材からの家具作り (建築史・意匠学研究室) | 07.16 LEGO indStorms Hackathon (Hiroshima Student Community) |
| 05.23 サークル報告会 活動紹介 | 08.07 建築ゼミナールⅢ (授業利用) |
| 05.27 Mode for Smiles | 10.24 ヨット部メンタルトレーニング (ヨット部) |
| 06.10 オープンゼミ (建築学専攻 建築環境学研究室) | 11.04 工学部写真展 (広島大学ホームカミングデー) |
| 06.11 DIYワークショップ「千鳥格子をつくろう！」 | 11.28 VR Game Jam (Hiroshima Student Community) |
| 06.28 ナイト・オブ・サイエンス「研究者としての生き方」 | 11.30 TED で楽しく英語を学ぼう |
| 07.10 いす作りワークショップ (建築系学生団体 scale) | 02.16 TED で楽しく英語を学ぼう |
| 07.14 キャンドル折り紙作成 (現代折り紙サークル) | |



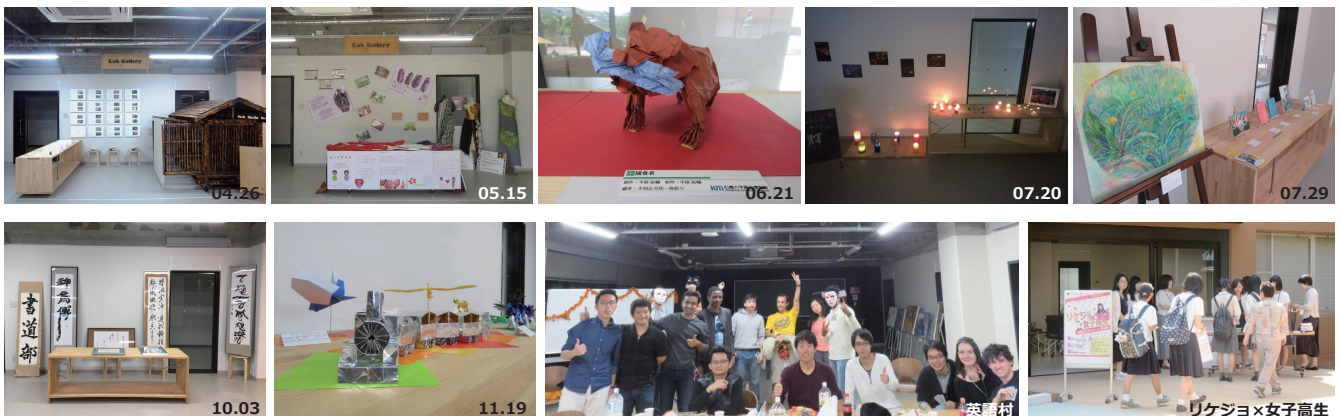
□ 大学企画：大学が計画し実施したもの

5月～2月 英語村 (毎週木曜 16:00～20:00)
参加者数 のべ 277名

- 08/18 リケジョ×女子高生～理系女子 (教員 + 学生) との座談会～
- 08/19 リケジョ×女子高生～理系女子 (教員 + 学生) との座談会～
- 12/15 第一回先輩交流アワー ゲスト：中国セントラルコンサルタント 前岡智之氏

□ ラボ企画 Lab. Gallery

- | | |
|------------------------------|--|
| 04/26～vol.1 建築系学生団体 scale | 07/29～vol.5 教育学部造形芸術系コース3年生有志「ちょっとよってみ展」 |
| 05/15～vol.2 Mode for Smiles | 10/03～vol.6 書道部 |
| 06/21～vol.3 現代折り紙サークル | 11/07～vol.7 おもしろ企画家具展2016より |
| 07/20～vol.4 キャンドルサークル灯(ともしび) | 11/19～vol.8 現代折り紙サークル |



□ラボ企画 Lab. Talk

- 06/14 vol.1 「ユーザー視点でかんがえるおもしろラボの使い方」(産学・地域連携センター 川瀬真紀氏)
 06/28 vol.3 「ヴァーチャルリアリティの世界」(工学研究科 博士課程前期2年 尾倉侑也氏)
 07/05 vol.4 「フードバンクの実際。食品ロスを利用したまちづくり」(環境カウンセラー 秦野英子氏)
 07/12 vol.5 「社会科教育への思いと研究。そして“研究をつたえる”ということ」(教育学研究科 博士課程後期3年 大坂遊氏)
 07/26 vol.6 「マネジメントへの興味を引き出す」(有限会社広島PS 宮原和樹氏)
 10/11 vol.7 「古い建物からみる日本人」(総合博物館 学芸職員 佐藤大規氏)
 10/13 vol.8 「余命35年の集落に住み始めたわかもの」(神石高原町小野地区 元地域おこし協力隊 小笠洋平氏)
 10/27 vol.9 「研究をビジネスに 広大における産学連携の動き」(産学地域連携センター 佐々木宏氏)
 11/09 vol.10 「あなたのアイデアで世界を“びっくり!”させよう イノベーション立県「広島」のチャレンジ」(広島県商工労働局 山崎弘学氏)
 11/10 vol.11 「進路選択から考えるこれからの教育」(NPO 法人 NEWVERY 伊藤俊徳氏)
 11/15 vol.12 「新興国の社会課題をビジネスで解決する～アイデア創出ワークショップ～」(アイシーネット株式会社 山中裕太氏)
 12/13 vol.13 「ド田舎で起業するメリット 映像クリエイターの場合」(神石高原町地域おこし協力隊 村上勇太氏)
 01/31 vol.15 「趣味を仕事に、仕事を趣味に～テレビ局映像ディレクターから汁無し麺専門店開業への軌跡」(麺屋颯爽 小椋伸太郎氏)



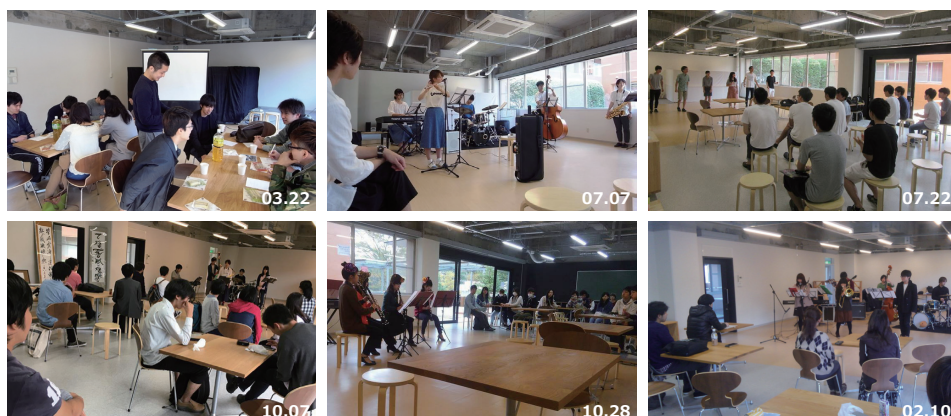
□ラボ企画 Lab. Cafe

- 08/10 第1回 学生と地域を結ぶ
 共催：東広島市・広島大学職員交流会（有志）、二水の夜会
 協力：Jazz 研究会、写真部カツオ君、広島大学教育学部造形芸術系コース3年生有志、折り紙サークル
 03/04 第2回 誰も教えてくれない！結婚のリアルと僕らの未来
 共催：東広島市子ども家庭課



□ラボ企画 Lab. Music

- 開催日 7/7、7/22、10/7、10/28、11/18、2/10
 主な出演者 Plaza de España、Jazz 研究会、
 教育学部音楽文化系コース有志ほか



□ラボ企画 ほか

- 2016/03/22 プレオープンイベント“こんな風に使いたい”
 12月上旬 クリスマスイルミネーション製作



3.

利用の動向

おもしろラボが掲げる「学生の主体的な行動を促す」というのは、言葉として表現することは簡単ですが、実際に仕組みをつくることは容易ではありません。初年度はおもしろラボ企画・運営委員が積極的にイベントを仕掛け、学生の主体的な行動を促すきっかけづくりを試みました。イベント運営が安定してきた後半のイベント(表1)に参加した計50名にアンケート調査を行い、利用の動向とその効果を調査しました。

1. どんな人が参加している？

アンケートに回答いただいた50名の所属一覧を表2に示します。

イベント参加者50名のうち、広島大学の学生が43名、他大学の学生が2名、一般社会人が3名、未記入が2名で、参加者の86%が学内からの参加でした。広島大学の学生43名の所属学部をみると、8学部3研究科という多彩な学部・研究科から学生が参加しており、全学向け施設としての役割を果たしていると言えます。また、理系学生が14名(33%)、文系学生が29名(67%)であり、学内学生のうち約3分の2が文系学部の所属です。LabTalkあるいはLabCafeでのイベントテーマが社会や仕事に関するものが多く、文系学生の方がこういったテーマへの興味関心が高い可能性を示唆しています。

2. 参加のきっかけは？

今回調査対象となったイベントに参加したきっかけを、選択式(複数回答可)で回答してもらいました(図1)。

回答者50名のうち29名(58%)が「テーマに興味があったから」を選択しています。「ゲストに興味があったから」も14名(28%)と高い割合を示しており、イベントのテーマあるいはゲストへ

表1. アンケート対象のイベント一覧

	タイトル	ゲスト
Lab Talk 13	ド田舎で起業するメリット - 映像クリエイターの場合 -	村上勇太氏 (神石高原町地域おこし協力隊)
Lab Talk 14	大学で何もなかった僕が28歳で編集長になれたワケ	山本速氏 (株式会社ザメディアジョン)
Lab Talk 15	趣味を仕事に、仕事を趣味に - テレビ局映像ディレクターから汁無し麺専門店開業への軌跡	小椋 伸太郎氏 (麺屋颯爽)
Lab Cafe 2	誰も教えてくれない! 結婚のリアルと僕らの未来 (東広島市こども家庭課共催)	棚橋美枝子氏 (NPO法人日本結婚教育カウンセラー協会) 梅田弘子氏 (広島国際大学)

表2. アンケート回答者の属性

所属		人数	割合
学内・理系	工学部	10	14 28%
	理学部	2	
	生物生産学部	1	
	生物圏科学研究科	1	
学内・文系	教育学部	11	29 58%
	総合科学部	9	
	経済学部	3	
	文学部	2	
	教育学研究科	1	
	国際協力研究科	1	
	法学部	1	
	社会科学研究科	1	
学外	他大学	2	7 14%
	社会人	3	
	未記入	2	
合計参加者数		50	

の興味がイベント参加への動機になっていることが伺えます。

参加者種別分析の結果と合わせて考えると、やはりLabTalkやLabCafeで取り扱っているテーマが文系学生(特に教育学部)の興味関心の対象になっていると考えられます。また「おもしろラボに興味があったから」と「都合が良かったから・なんとなく」を選択した参加者もそれぞれ9名(18%)と10名(20%)と少なくなく、LabTalkやLabCafeが気楽に参加できるイベントであることが伺えます。「その他」の詳細は、全て「ゲストや主催者、知人に誘われた」です。

3. どこが楽しいと感じた？

次いで、イベントに参加して何を楽しいと感じたか、そしてその理由は何かを、自由記述で回答してもらいました。テキストマイニングという分析ツール(ソフトウェア提供:株式会社ユーザーローカル)を利用し、使用頻度の高い単語(名詞、動詞)を抽出しています。

イベントに参加して楽しいと感じたこ

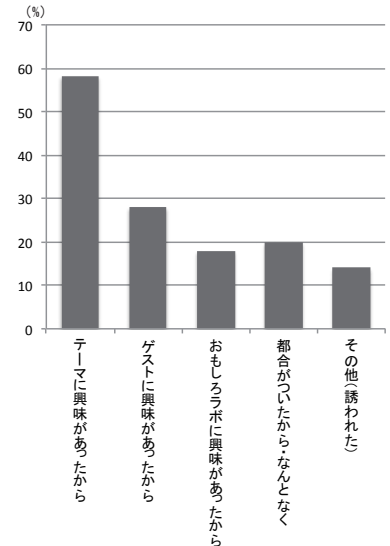


図1. イベントに参加したきっかけ

とに関する自由記述で最も使用頻度が高かった名詞は「人生」です。この単語につながる動詞として「考える」「できる」「聞く」が抽出されました。つまり、「ゲストの人生を聞くことができた」「自分の人生を考えることができた」といった点を参加者が楽しいと感じていることが明らかとなりました。これは参加学生が人生を考える機会を望んでおり、おもしろラボがその機会を提供できていることを示唆しています。

楽しいと感じた理由の自由記述においても「人生」が最も高い使用頻度を示しましたが、他にも「普段」「興味」という名詞の使用頻度が同数で検出されています。具体的には「普段聞けない話が聞けた」「興味がある話を聞けた」などを主旨とする記述が多く、LabTalkやLabCafeの内容が参加学生の世界を広げるきっかけ、興味を深掘りするきっかけになっていることが伺えます。その一方で、「結婚」や「仕事」など、大学卒業後の生活に関するキーワードの使用頻度も高く、学生たちが大学卒業後の生活

に興味関心を持っており、場合によっては不安を感じている可能性を示唆しています。また、「疑問に思ったことをすぐに聞くことができる」「閉会しても何組かで継続した話があった」などの記述があり、参加学生が積極的にイベントに参加している様子が伺えます。さらに、「本は全くと言っていいほど読まないのですが、自分のためにも読むべき、知識を蓄えるべきだと思う日々なので、図書館へ行き、時間がある今の内に読もうと思いました。」といったコメントもあり、おもしろラボへの関わりが、学生の新たな行動のきっかけになりうることを示唆しています。

4. おもしろラボ、どう使う？

第1節でも示した通り、おもしろラボは学生の主体的な行動（発信と発進）

を促す空間づくりを目指しています。そこで、おもしろラボのイベントに参加した学生が、どのような行動を起こしたいと考えているかを、「おもしろラボを自由に使えるとしたら何をしますか？」という質問により調査しました。35名から回答があり、そのうち7つ（原文まま）を示します。

- ・みんなでアート：壁面に色絵の具をまいてみる
- ・大学生向けに将来やこれからの生き方に役立つようなことを伝えたい
- ・教授の方々と一二年生との交流会、オフィスアワーの利用
- ・決まったテーマについてディスカッションする
- ・今回のような講演会だったら言いたいことが有り余ってる友人を連れてきて話させたい。今回は就職や人生観など、学生

の悩みになることに直結したような役に立つ内容だったが、全然役に立たない楽しい話、学問的な会に使えたらいいのと思います

- ・セミナーやワークショップ、企画の打ち合わせなどで使いたい
- ・平日の夜遅い時間や休日にイベントをやりたいときに使い易い場所だと思うので、セミナーや実験を外部の講師の方を読んでできないかと思っています

以上の様に、おもしろラボの使い方について具体的な回答が多数ありました。おもしろラボのイベント参加を通じて、「やりたいこと」を考えるきっかけになったと考えられます。今後はこういった「やりたいこと」を持つ学生が実際に行動に移す仕組みと環境を整えていきたいと考えています。

4. 企画・運営委員会の活動を通じて

おもしろラボの企画・運営委員会では、初年度の一年間を通じて、ラボの使用や管理の方法を構築し、またラボ企画を立ち上げて実施してきました。

そこで、委員会学生メンバーのうち5名にヒアリング調査を行い、その声をまとめました（右、次頁）。ここから、彼らにとって委員会の活動にどんな意義があったかを考えてみたいと思います。

まずは、ラボ企画を計画・実施するという経験そのものが様々な学びにつながっていることが分かります。具体的には、B君の「自分たちの思いだけではなく、それをご支援くださる方にきちんと説明をすることの大切さを学びました」、E君の「企画して実行して反省、という一連の流れをここで実際にできたのが一番ためになった」という声です。

次に、委員会の活動を通じて専門分野以外の学生や社会人との接点が多く得られたようです。更に、そうした人々と出

A君

工学部4年。これまで、海外でのボランティアや社会課題の解決を目指す活動をしてきた。おもしろそうな場所が工学部にできると聞き、企画運営委員会に顔を出すようになった。

Qおもしろかったことは何ですか？

純粋にイベントを企画するのが面白かったです。ラボトークをやって、起業関係の人とかまちづくりの人が来たりとか、今まで触れたことのない分野の人の話が聞けたり、打合せで話ができただことは楽しかったです。あとは、**他専攻の人と一緒にやるのは面白かったですね。**全く知らない知識がたくさん出てきて。**専門が違ふと考え方が全く違いますね。**そういうのを見せられると、自分が何出来るんだろうっていうのはすごい思ったことで。自分の専攻は原理とかそういうのをつきつめる方が多くて、現実へのアウトプットみたいな部分が体感できる瞬間っていうのがないんで、**自分が今学んでいることを持って実社会に出て何ができるかな、っていうのはすごい考えたことです。**

Q大変だったことは何ですか？

今まで自分が触れたことのない分野を人に告知するというのがけっこう難しくて。どうしたら、興味を持ってもらえるかな？っていうのは結構考えました。

B君

総合科学部3年。これまで、広島大学の学生団体の組織化や学生と地域をつなぐことをコンセプトとした学生団体を運営していた。その活動で企画・運営委員会メンバーと会い、おもしろラボへ誘われたのがきっかけになった。

Qおもしろかったことは何ですか？

学部異なる人たちと積極的に意見を交わしたり、ともにプロジェクトを運営していくこと。

Q大変だったことは何ですか？

ラボカフェの準備が大変でした。準備を通じて、**自分たちの思いだけではなく、それを支援くださる方にきちんと説明をすることの大切さを学びました。**同時に見せ方や伝え方の重要性も感じました。

Qおもしろラボの強みは何ですか？

学部を超えたつながりができることや、社会人との接点が多いことです。

C君

工学部博士課程前期2年。これまで、僕は建築系サークルで、建築でパブリックな空間をどのように作るかを考えて、街の中で映画が見れるような移動式映画装置を作って上映する等していた。おもしろラボの基本計画から携わる初期メンバー。

Qおもしろかったことは何ですか？

ここで面白い人に使ってもらおうと思って、**広大内で活動している意欲的な学生を意識的に探すようになって、いろんなことをしている学生がいるんだって知れたのが良かった。**その人たちと話して刺激になりました。あとは学内の活動とかも意識的に見て、中央図書館で芸術系の学生が展示をしていたら、そこで話して、展示しませんかってことをお願いしたり。**違う価値観の人と出会えたのが良かったです。**

Qおもしろラボの強みは何だと思いますか？

学生が主体になって、こんな場所がいいなと思って企画運営するのは、多分全国を見てもなかなかないと思うので、それは強みだと思う。場所ってというのは大学で管理されてて、その枠に合わせてやるっていうのが慣例だと思うんですけど、そうじゃなくて自分たちで大学を使い倒してやるっていうか。受動的に研究をするのだけじゃなくて、**自分たちで大学の中でなにかしてやるっていうエネルギーが出てくる場所がすごい重要だなと思います。**

D君

工学部博士課程前期2年。学部生の時に音楽系のサークルに入っていたので、引退後も演奏活動を続けていた。それに加えて建築系サークルの活動にもたまに参加していた。おもしろラボの基本計画から携わる初期メンバー。

Qおもしろかったことは何ですか？

僕は、**いろんな人に会えたのはすごく良かったな。**直接ラボトークをお願いした人とかは、そもそもちょっと興味があってお願いしてたので聞いて良かったなと思います。逆にしんどかったなとも思いますけど、いややなーって。個人的に合わないとかはやっぱりあったなとは思いますが。とにかくまとめると、いろんな人に会えたのはとても大きかった。

Qおもしろラボの強みは何だと思いますか？

規則がこうだから駄目、っていう場所じゃないなっていうこと。他の借りる場所とかは規定が決まってて、駄目なことは完全に駄目って言われるけど、ここでは本来のルールでは通らない企画を一度実現させられた。**学生の活動をもっと広げられる、いろんなことに対応しうって感じられるのは、すごく大きいとこだなって思いました。**

E君

工学部4年。体育会系の部活で3年12月まで活動。その後、過疎地域の地域おこしイベントに参加したり手伝いをしてきた。

Qおもしろかったことは何ですか？

実際にラボトークを企画して、**参加者が来てくれて、面白い話だったとか来てよかったという声が聞けたときが一番おもしろいなと思いました。**あと、最初ここに関わったときはまだいろんな看板とか装飾とかなかったけど、徐々におもしろラボの装飾が増えていっているのが面白くなって思いました。

Qためになったことは何ですか？

実際に企画して実行して反省、という一連の流れをここで実際にできたのが一番ためになったなと思います。企画の段階でも、本当にこの企画は需要があるのかっていうのを考えたり、日程とか、そういういろいろ考えることができたし、実行のところでも、主にラボトークなんですけど、段取りとか、どの時間帯にしたらいいのかっていうのをいろいろ学べました。

会い、価値観や考え方の違いに接したことが、ひいては自身の研究活動の振り返りや今後の展望を考えるきっかけとなっていることが分かります。例えばA君は、「専門が違うと考え方が全く違いますね。そういうのを見せられると、自分が何出来るんだろうっていうのはすごい思ったことで(中略)自分が今学んでいることを持って実社会に出て何ができるかな、っていうのはすごい考えたことで」と話しています。

最後に、C君の「自分たちで大学の中でなにかしてやるっていうエネルギーが出てくる場所がすごい重要だ」、D君の「学生の活動をもっと広げられる、いろんなことに対応しうって感じられるのは、すごく大きいとこ」という声に着目しましょう。彼らはおもしろラボでの活動を通じて、より主体的に大学生活を送るには、という意識が芽生えています。これは、教育的な観点から見て意義の深いことと言えます。

さて、2017年度、おもしろラボは二年目を迎えます。どのような活動が展開され、またここを使う人々にどんな変化がもたらされるか、期待が高まります。



おもしろラボ ホームページ



おもしろラボ Facebook

おもしろラボ年次報告書 2016年度

Omoshiro Lab. Annual Impact Report FY2016

2017年3月31日発行

□発行者

おもしろラボ 企画・運営委員会

教員：平野吉信・角倉英明・石垣文・杉川幸太

大学院生：原田慎平・津田康平・渡辺祥平

学部生：大村健人・松下健祐・藤原佳祐

□発行所

広島大学大学院工学研究院 おもしろラボ

738-8527 広島県東広島市鏡山 1-4-1

omolab-en@hiroshima-u.ac.jp

□印刷・製本

デザインオフィス仔ざる貯金

©2016FY おもしろラボ企画・運営委員会

(本書掲載の写真・記事の無断転載および複写を禁じます)